

## ‘日本数学会関孝和賞’

### 日本数学会関孝和賞の創設および第一回受賞者谷口豊三郎氏



社団法人日本数学会の活動方針は定款第5条に『この法人は数学の研究を盛んにし、またその普及をはかり、関係諸部面とも協力して学術文化の向上発展に寄与することを目的とする』と謳われている。1995年の数学会年会が50回目の年会であることを記念して、数学の研究業績以外で数学の発展に寄与し、学術文化の向上発展に著しい貢献をした個人および団体の業績を顕彰し、併せて日本数学会の活動を広く世に知らせるために日本数学会関孝和賞を制定し、谷口豊三郎氏を第一回受賞者とすることを1994年9月27日の評議員会で決定した。

谷口豊三郎氏には受賞の内諾および授賞式を第50回年会の前日、1995年3月26日に行うことで内諾を得、準備中であったが、1994年10月26日に逝去された。ここに谷口豊三郎氏が生前内外の数学界に対してなされた偉大な貢献に対して深く感謝の意を表明すると共に、謹んでご冥福をお祈りする。

日本数学会  
1994年度理事会

#### 日本数学会関孝和賞受賞者 谷口豊三郎氏の業績

上野 健爾

谷口豊三郎氏は1901年大阪府に生まれ、天王寺中学、三高を経て東大工学部を卒業後、1927年大阪合同紡績に入社され、合併により東洋紡に移籍、1947年社長に就任されたが、公職追放により一日で辞任、1957年社長に復帰、1966年会長、1972年相談役に退き1977年より東洋紡名誉顧問であられたが、1994年10月26日に逝去された。天王寺中学と三高で故秋月康夫氏と同窓、また三高では故岡潔氏と同窓であった。また1970年日本繊維産業連盟の初代会長に就任し、日米繊維交渉のとりまとめに奔走された。このときの経験が、後述するように谷口

シンポジウムの創設につながった。

谷口氏は亡くなられた父君谷口房蔵氏の遺志により、1929年「谷口工業奨励会」を創設され、主として大阪、京都での科学技術の振興につくされた。大阪大学に戦前に設置されたサイクロトロンはこの会の援助によるものである。1949年頃から「谷口工業奨励会」は主として理論物理や数学への援助を行ってきた。1956年に秋月康夫氏が数学の研究活動のための資金不足を谷口氏に訴えられたのがきっかけで、日本数学振興会が設けられ、以後「谷口工業奨励会」はもっぱらこの会の育成援助を行っ

た。これによって大学間の垣根を越えた研究会が数学の分野では初めて開かれるようになり、日本の数学の研究の進展に大きく寄与した。科学研究費が比較的自由に使え、多くの研究集会が開催されている今日からは想像もできないことであるが、「谷口工業奨励会」の果たした役割の大きさは計り知れない。この援助によって開かれたセミナーは1972年までの開催総数51件、参加者の延べ人数は750人に及ぶ。

1976年谷口氏は、谷口工業奨励会を改組し、新たに巨額の私財を投じて、財団法人「谷口工業奨励会四十五周年記念財団」略して谷口財団を創設された。谷口氏は日米織維交渉の時、国境を越えた友情を持つことの大切さを痛感され、地球上の若者たちの間に国境を越えた友情が育ってこそ、世界に平和が保たれ、これなくして日本の将来はないと固く信じられ、この理想の実現のために僅かでも役に立つことを願って財団を設立されたと聞いている。財団には、数学、哲学など基礎的な学問の分野について15(現在は18、内数学は2部門をしめている)の部門がおかれ、各部門は年一回国際シンポジウムを、財団から必要経費の全額の援助を受けて開催している。このシンポジウムの特徴は組織責任者の指名により次代を担う内外の学者十数名がシンポジウムに参加し、数日間起居を共にして学問を論じる点にある。日夜を通した討議によって友情が生まれその後の研究交流に大きく役立っている。谷口シンポジウムが日本の数学の国際化、世界の数学の進展に大きく貢献しているだけでなく、真の国際理解を築くのに役立っていることも忘れてはならない。なお数学部門は、当初は秋月康夫氏、その後は伊藤清、村上信吾の両氏が部門責任者としてお世話をされている。

このような財団の活動に対してフランス政府は1988年度バルム・アカデミーク・オフィシェ勲章を谷口氏に贈りその功績を讃えた。これを受けられた谷口氏は、秋月氏の名を閲した日仏数学者の交流事業を行うように村上信吾氏に私財を託され「秋月日仏交流計画」が実現し日本とフランスの若手数学者それぞれ5名が共同研究に従事した。

このように、谷口豊三郎氏の数学界にたいする貢献には絶大なものがある。とりわけ数学という地味な基礎的学間に理解を示され積極的に援助された財界人は空前絶後であり、谷口財団の創設を通して谷口シンポジウムを育成されたスケールの大きさにはただただ脱帽するばかりである。これほどの偉業に対して、日本数学会が谷口

氏の功績を顕彰するのにあまりに遅きに失し、生前の谷口氏に感謝の意を直接に表明する機会を失したことは痛恨の極みである。謹んで谷口氏のご冥福をお祈りする。

以下、谷口工業奨励会および谷口財団の援助によって開かれたシンポジウム等を手持ちの資料でわかる範囲で列挙する。十分に時間をかけてさらに完全なリストを作成することは日本数学会に課された義務であると考える。なお、紙数の関係上、名称と開催場所開催日のみを記す。

#### 谷口工業奨励会による援助

##### 1956年度

解析多様体の微分幾何(東洋紡赤倉寮、7月25日～8月1日), Zariski教授招聘(東大、京大、9月～11月)

##### 1957年度

数学基礎論(東洋紡修学院寮、5月21日～22日), 代数幾何学(東洋紡赤倉寮、7月24日～30日), 位相解析(東洋紡修学院寮、10月7日～9日)

##### 1958年度

多様体と位相幾何学(東洋紡赤倉寮、7月25日～30日), ホモロジー代数と整数論(東洋紡修学院寮、10月22日～24日) 数学基礎論(東洋紡修学院寮、10月29日～31日)

##### 1959年度

偏微分方程式(東洋紡修学院寮および京大理・数、5月18日～30日), 代数群と球函数(東洋紡赤倉寮、7月27日～8月3日), 岡潔論文集(岩波書店)刊行補助

##### 1960年度

リー群と複素解析多様体(東洋紡赤倉寮、7月26日～9日), 代数幾何学(京大理・数、10月17日～19日), 確率過程(東大理・数、1961年1月12日～14日)

##### 1961年度

函数論(東洋紡修学院寮、7月2日), 数学基礎論(東洋紡赤倉寮、7月24日～30日), 多様体の微分幾何学的研究(東洋紡堅田求是荘、11月14日～16日), W.Baily教授 松阪輝久教授特別講義(京大理・数学、5月15日～6月16日)

##### 1962年度

微分位相幾何学(東洋紡堅田求是荘、7月10日～12日), 微分方程式(東洋紡赤倉寮、7月27日～30日), 数学基礎論(東洋紡堅田求是荘、10月17日～19日), 球函数の理論(東洋紡堅田求是荘、5月14日～16日), 理論物理学の基礎にある数学的問題(東洋紡堅田求是荘、7月15日～17日)

1963 年度

Moduli の問題の基礎理論 (D. Mumford 教授講演と討論 (東京大学, 東京教育大学, 5月2日~16日毎週3日, 6月18日~7月4日毎週2日), 代数幾何学 (東洋紡堅田求是荘, 5月17日~23日) 表現論とゼータ函数 (東洋紡堅田求是荘, 1964年3月23日~27日)

1964 年度

偏微分方程式論 (東洋紡堅田求是荘, 8月5日~8日), 数学解析と理論物理学 (京大数理研, 1965年3月22日~24日), 数学教育討論 (東洋紡堅田求是荘, 9月5日~7日), 局所環談話会 (Krull 教授を囲んで) (京大理・数, 11月14, 15日)

1965 年度

数学基礎論 (東洋紡赤倉寮, 7月26日~30日), 偏微分方程式国際シンポジウム (東洋紡堅田求是荘, 5月25日~27日), 代数幾何学 (東洋紡堅田求是荘, 11月19, 20日)

1966 年度

国際数学シンポジウム (東洋紡堅田求是荘, 偏微分方程式, 9月18日~20日, 複素多様体論, 9月20日~22日), 数学基礎論 (勝浦市守谷, 至大荘, 10月15日~18日), 微分位相幾何学 (東洋紡堅田求是荘, 11月24日~26日), Painlevé 講義録 (Stockholm, 1896) の複写, 頒布

1967 年度

数学基礎論 (留萌市, 北海道銀行留萌支店, 8月9日~12日), 大学における数学教育 (虎ノ門共済会館, 1968年1月20, 21日), 代数幾何学 (東大理・数, 1968年3月25日~28日)

1968 年度

ユニタリ表現論と函数論 (東洋紡堅田求是荘, 7月28日~30日), 有限群論セミナー (京大理・数, 9月2日~4日), 代数幾何学 (藤沢市片瀬 向洋荘, 1969年3月16日~18日)

1969 年度

群論 (横浜公務員共済組合, 8月31日~9月3日), 超函数と代数幾何学 (東洋紡堅田求是荘, 8月7日~9日), 超函数と表現論 (藤沢市片瀬 向洋荘, 1970年3月)

1970 年度

Kolchin 教授を囲む会一微分環と代数幾何学一 (名大理・数, 5月20, 21日), 超函数 (東大理・数, 12月23, 26日), 有限群, 代数群シンポジウム—M. Suzuki, J. Tits 両教授を迎えて— (東洋紡堅田求是荘, 1971年)

3月20日~30日)

1971 年度

有限群 (北大理・数, 7月15日~17日), 超函数論 (東洋紡堅田求是荘, 10月12日~14日), Global Analysis (東洋紡堅田求是荘, 1972年3月28日~30日)

1972 年度

代数的整数論 (東洋紡白馬荘, 7月5日~8日), 超函数論 (東洋紡堅田求是荘, 10月11日~13日), 有限群論 (箱根強羅, 静雲荘, 10月16日~18日), 偏微分方程式 (東洋紡堅田求是荘, 11月6日~8日)

谷口シンポジウム (前後に関連して行われたシンポジウムは略す。)

1. Finite group theory, 北海道大学, 1974年9月1日~7日

2. Symposium : Algebraic number theory, 京都大学, 1976年3月22日~29日

3. Algebraic geometry, 京都大学, 1977年1月10日~14日

4. Probability and analysis, 1977年東洋紡堅田求是荘, 8月18日~25日

5. Geometric function theory, 東洋紡堅田求是荘, 1978年9月1日~6日

6. Non-linear problems in geometry, 東洋紡堅田求是荘, 1979年9月3日~8日

7. Topics in singularities, 東洋紡堅田求是荘, 1980年9月3日~9日

8. Functional analysis in Markov processes, 東洋紡堅田求是荘, 1981年8月21日~26日

9. Commutative algebra, 1981年9月3日~7日

10. Stochastic analysis, 東洋紡堅田求是荘, 1982年7月1日~7日

11. Classification of algebraic and analytic manifolds, 東洋紡堅田求是荘, 1982年7月8日~13日

12. Algebraic groups and their representations, 東洋紡堅田求是荘, 1983年8月29日~9月3日

13. Automorphic forms of several complex variables, 東洋紡堅田求是荘, 1983年9月5日~10日

14. Hyperbolic equations and related topics, 東洋紡堅田求是荘, 1984年8月27日~31日

15. Structure theory of non-linear integrable differential and difference systems, 東洋紡堅田求是荘, 1984年9月3日~6日

16. Probabilistic methods in mathematical physics, 東洋紡堅田求是荘, 1985年6月20日～26日
17. Curvature and topology of Riemannian manifolds, 東洋紡堅田求是荘, 1985年8月26日～31日
18. Analysis on homogeneous spaces, 東洋紡堅田求是荘, 1986年8月25日～30日
19. Class numbers and fundamental units, 東洋紡堅田求是荘, 1986年6月24日～28日
20. Complex analytic theory of differential equations, 東洋紡堅田求是荘, 1987年8月17日～22日
21. Geometry and analysis on manifolds, 東洋紡堅田求是荘, 1987年8月23日～29日
22. Solvable models in statistical mechanics and quantum field theory, 東洋紡堅田求是荘, 1988年10月24日～28日
23. Birational geometry of algebraic varieties, 東洋紡堅田求是荘, 1988年8月22日～27日
24. Non-linear partial differential equations and applications, 東洋紡堅田求是荘, 1989年8月23日～29日
25. Prospects in complex geometry, 東洋紡堅田求是荘, 1989年7月31日～8月5日
26. Asymptotic problems in probability theory,
- 三田市関西学院千刈セミナーハウス, 1990年8月31日～9月5日
27. Einstein metrics and Yang-Mills connections, 三田市関西学院千刈セミナーハウス, 1990年12月6日～11日
28. Special differential equations, 東洋紡堅田求是荘, 1991年8月26日～31日
29. Arithmetical algebraic geometry, Château de Brécourt, France, 1991年7月8日～14日
30. Spectral and scattering theory, 三田市関西学院千刈セミナーハウス, 1992年11月16日～20日
31. Field theory and low-dimensional topology, 三田市関西学院千刈セミナーハウス, 1993年1月4日～10日
32. Operator algebras, 関西セミナーハウス(京都修学院), 1993年7月5日～10日
33. Symplectic geometry and quantization problems, 三田市関西学院千刈セミナーハウス, 1993年7月11日～17日

なお谷口シンポジウムは39回まで開催が予定されている。

(1994年11月28日提出)  
(うえのけんじ・京都大学理学部)

## 大学での数学教育の新しい流れ

丸山正樹  
磯祐介

**§1 京都大学理学部におけるカリキュラム改定**  
いわゆる一般教育科目的廃止による大学教育のカリキュラム改革は全国的傾向であるが、京都大学理学部においては教養部の学部化並びに大学院理学研究科の重点化と関連しつつその改革が行なわれた。本稿では京都大学理学部における数学教育の改革を紹介したい。

京都大学理学部では学科別の学部学生の募集をしておらず、学生の自主性を重んじた教育が行なわれている。即ち学部での各教科の授業計画を専門分野毎に行なわず、学部全体で授業計画を立て、各学生の自己啓発による専門化を目指し、この方針に従ってこれ迄に多くの優れた人材を輩出してきた。学生は入学後2年間は旧来の

一般教育科目に相当する全学共通科目と専門基礎科目を中心に学修を進め、自己の適性を考慮しつつ後半の2年間に学修すべき専門分野を決定する。3回生段階で数理科学系を始めとする専門別の系に所属し、それぞれの専門分野についての学修を行なうが、この系への所属も固定したものではなく、全くの無条件ではないが学生の意志によって所属系の移動も可能である。

このような制度の中で、学生が自己にあった学修が進められるようにカリキュラムの上でも幾つかの配慮がなされている。例えば各科目の履修年度は一つの目安として示されているものの拘束力は薄く、実験・実習・演習・セミナー等受け入れ人数に制限のあるものを除く